

風の軍団



風の1番隊 信玄の信頼厚い赤備隊の猛将
飯富兵部少輔虎昌
 (?~永禄8年10月15日)

P5/MAP 陣屋 No. **11**



武田家の譜代家老で、山県昌景の実兄。信玄の父信虎と対立し挙兵したこともある反骨の人であった。信虎追放後は信玄を支え、信濃国内山城（佐久市）、塩田城、室賀城（上田市）の在番や城主を歴任し、村上義清や上杉謙信の侵攻に備えた。信玄の嫡男義信の傅役となるなど重用されたが、義信と信玄が対立すると、虎昌は義信を庇い、責任を一身に背負って自刃したという。



参加団体 / 西桂町

風の2番隊 武功で34枚の感状を貰った弓矢巧者
横田備中守高松
 (長享元年~天文19年10月1日)

P5/MAP 陣屋 No. **5**



伊勢国出身の浪人であったが、武田信虎に召し抱えられ騎馬30騎、足軽100人を率いる足軽大将となった。信虎・信玄二代の重要な作戦のうち、34度に参加した。全身には31ヶ所の疵痕があったと伝わる。天文19年(1550)、信玄が村上義清の属城戸石城(上田市)の攻略に失敗し退却する際、高松は、殿軍をつとめ、村上軍の追撃を一身に受けて戦死した。



参加団体 / JR東日本グループ

風の3番隊 六連銭の旗印、城攻めに知略を発揮
真田弾正忠幸隆
 (永正10年?~天正2年5月19日)

P5/MAP 陣屋 No. **6**



真田氏は、信濃国小県郡を中心に発展した滋野一族の支流で、幸隆は名族海野氏の出身といわれる。天文10年に、信玄の父信虎に攻められ、海野棟綱らとともに上野国に亡命したが、同15年までに信玄に臣従し、信濃経略で活躍した。後に出家して一徳齋と号した。晩年は上野国経略に専心し、岩櫃城、白井城などを攻略し、武田氏の上野国西部制圧を確実なものとした。天正2年に病没した。



参加団体 / 山梨市

NTT東日本

第51回信玄公祭り 甲州軍団出陣
山県三郎右兵衛尉昌景
NTTグループ隊



つぎのミライは、
 あなたの街からはじまる。



[NTT東日本公式YouTube]



4月5日(土)

舞鶴城公園(特設ステージ)
 陣屋前(甲府市役所内)で、

「ダンスパフォーマンス」
 陣屋前(甲府市役所内)で、
「振る舞い酒」
を行います

是非お立ち寄りください!



K24-04520[2502-2504]

林の軍団



林の1番隊 軍略家として優れた西上野支配の譜代家老
内藤修理亮昌秀
 (?~天正3年5月21日)

P5/MAP 陣屋 No. **13**



武田家の譜代家老工藤氏の出身で、もとは工藤源左衛門尉と称した。信玄の側近、奉行として重用され、重要な作戦のほとんどに参加した。馬場信春に代わって信濃国深志城(現在の国宝松本城の前身)の城代となり、永禄末年ごろ、内藤家の名跡を継ぎ、修理亮を称した。天正3年(1575)の長篠の戦いでは三重櫓をすべて突破するなど奮戦したが、徳川軍に反撃され戦死した。



参加団体 / 株式会社 YSK e-com

林の2番隊 軍事的に重要な役割を果たした知将
小山田左兵衛尉信茂
 (天文9年?~天正10年3月24日)

P5/MAP 陣屋 No. **8**



小山田氏は、武田家の一門衆(御親類衆)の待遇を受けた名族で、中津森(後に谷村)に館を構えて、都留郡を支配した名族。信茂は、兄弥三郎信有が、永禄8年(1565)8月に病没したため家督を相続し、信玄・勝頼二代に仕えた。勝頼時代には、武田信豊とともに武田氏を支え、上杉氏との同盟交渉では中心的役割を果たした。武田氏滅亡後、織田軍に捕らわれ、処刑された。



参加団体 / 富士吉田市

林の3番隊 御親類衆の筆頭として手腕を発揮
穴山玄蕃頭信君
 (天文10年~天正10年6月2日)

P5/MAP 陣屋 No. **7**



信君の生母は信玄の姉南松院殿、正室は信玄の息女見松院殿である。信君は、今川氏とも親交が深く、信玄の今川攻めに際しては、今川家臣の調略を担ったという。長篠の合戦で、山県昌景が戦死したため、駿河江尻城主に就任し、織田・徳川・北条三氏の圧力を防いだ。武田氏滅亡の際には、織田・徳川氏に降伏し、武田氏の再興を夢見たが、本能寺の変に巻き込まれて死去した。



参加団体 / パナソニックグループ

林の4番隊 信玄、勝頼二代にわたった側近
土屋右衛門尉昌統
 (天文14年~天正3年5月21日)

P5/MAP 陣屋 No. **3**



西郡の豪族金丸虎義の次男で、金丸平八郎と称していた。信玄の奥近習六人に選抜され、永禄4年(1561)9月の川中島の戦いでは、本陣の信玄を守り奮戦したことからも、名族土屋氏の名跡を与えられた。元亀元年(1570)に右衛門尉に任官され、100騎を預かる侍大将に取り立てられた。天正3年(1575)の長篠の合戦で戦死した。



参加団体 / カステクニカグループ
 上野電子株式会社

林の5番隊 教養と学識の高い信玄の補佐役
武田典厩信繁
 (大永5年~永禄4年9月10日)

P5/MAP 陣屋 No. **12**



信虎の次男(実兄3男)。生母は大井氏で、信玄・犬千代(早世)・信繁・信廉は同腹である。元服して信繁と名乗り、左馬助の官途を称した。この官途の唐名が典厩であったため左典厩と呼ばれた。信玄を支えて信濃経略で活躍した。永禄元年(1558)息子信豊に、99ヶ条に及ぶ家訓を与えた。その全文に渡って、中国の古典が引用されており、信繁の学識の高さがわかる。川中島で壮烈な戦死を遂げた。



参加団体 / 山梨中央銀行

林の6番隊 優秀な武士を召し抱えた「伊達者」
一条右衛門大夫信龍
 (?~天正10年3月)

P5/MAP 陣屋 No. **1**



信虎の7男(実兄8男)。信玄の異母弟。武田氏の一門衆(御親類衆)として、100騎を率いた。信龍は、常日ごろから、武具の手入れや更新を怠らず、諸国の浪人の中から、逸材を召し抱えるよう、心懸けていた。天正10年の武田氏滅亡の際には、本拠地上野城に籠城して徳川家康と戦い、信就とともに市川で処刑されたと伝わる。



参加団体 / 桔梗屋グループ

いつでも入園無料!富士急ハイランド!



富士急グループは信玄公祭りを応援しています



ZOKKON 公式サイト

火の軍団



火の1番隊 地理感覚に優れた領域支配の行政官僚
原隼人 佐昌胤 (P5/MAP 陣屋 No. 11)

信虎に仕えた譜代家老原加賀守昌俊の子で、武田軍の陣立てなどを立案する陣場奉行を命じられたといわれ、また信玄の側近、奉行としても活躍した。信玄の晩年には、山県昌景とともに、武田家の最高職である両職を担ったとされる。昌胤は地理に精通し、初めての場所でも方角を見失わなかったと伝わる。天正3年の長篠の戦いで山県とともに左翼を担当し、徳川軍と激戦の末戦死した。

参加団体 / 甲府市 (青少年育成甲府市民会)

火の4番隊 剛勇で名をはせた治国の最高責任者
甘利備前守 虎泰 (P5/MAP 陣屋 No. 14)

武田氏の譜代家老で、板垣信方とともに両職という最高職に就任していたとされる重臣。甘利氏は、甲斐源氏の支流にあたり、武田氏を支えて活躍した。武田信虎・信玄二代に仕え、100騎を率いる侍大将でもあった。武田信虎追放時には、板垣とともに信玄擁立に尽力した。天文17年2月、信玄が村上義清と戦い、初めての敗戦を喫した上田原の合戦で板垣とともに戦死した。

参加団体 / 韮崎市

火の2番隊 海津城代として信濃統治の一翼を担う
高坂弾正 忠昌信 (P5/MAP 陣屋 No. 2)

高坂弾正は石和の百姓春日大隅の子で、信玄に見いだされて近習となり、足軽大将に抜擢、永禄3年(1559)ごろ海津城代に任命されるなど、異例の出世を遂げた。長篠の戦いで、同僚の多くが戦死したことに衝撃を受け、信玄の言行や行動哲学などをまとめた書物を書き上げた。これが『甲陽軍鑑』の原本とされる。その後、上杉景勝と勝頼の同盟交渉役に就任したが、実現しないまま病没した。

参加団体 / 笛吹市

火の5番隊 36度の功名、41カ所の手傷
小幡山城守 虎盛 (P5/MAP 陣屋 No. 2)

小幡虎盛は、遠江国出身の浪人で、父・浄とともに武田家に仕官し、騎馬15騎、足軽75人を預かる足軽大将に任じられたという。信虎・信玄二代の重要な作戦のほとんどに参加し、永禄3年(1560)に信濃海津城が完成すると、高坂弾正を補佐役として在城した。虎盛は、川中島の合戦の直前に病没した。「よくみのほどをしれ」と子息に遺言したという。

参加団体 / 甲斐市

火の3番隊 合戦の先頭で武勇抜群の信州先方衆
真田源太左衛門 尉信綱 (P5/MAP 陣屋 No. 13)

真田幸隆の嫡男。信玄の命により、父幸隆とともに上野国白井城を攻略し、同じころ、上野国岩櫃城代にも任せられ、上杉謙信の南下に備えた。信玄晩年の合戦には、ほとんど参加しており、その功績により、元龜3年には信濃の武士で、唯一、200騎という最大の兵力を与えられた。天正3年(1575)の長篠の戦いでは、弟昌輝とともに、勝頼を逃がすために奮戦して戦死した。

参加団体 / コニカミノルタグループ

火の6番隊 行政・外交・軍事面の中心的人物
山県三郎右兵衛 尉昌景 (P5/MAP 陣屋 No. 11)

武田家の譜代家老飯富氏の出身で、虎昌の弟。信玄の側近、奉行として活躍した。信玄の命により、名門山県氏の名跡を継ぎ、処刑された兄虎昌の配下をはじめとする100騎を預かり、譜代家老に連なった。昌景の部隊は装備を赤で統一していたことから、「山県の赤備え」と呼ばれたという。駿河江尻城主(静岡市)に就任し、織田・徳川氏と対峙した。長篠の合戦では、徳川軍と激戦を展開し戦死した。

参加団体 / NTTグループ

山の軍団



山の1番隊 夜襲が得意で「火車」鬼を打ち取った豪傑
多田淡路守 満頼 (P5/MAP 陣屋 No. 8)

多田淡路守は、美濃出身の浪人。仮名は三八郎といひ、多田三八と略称されることが多い。足軽大将に任命され、信虎以来、数多くの合戦に参加し、感状をもらうこと29度に及ぶ。全身には27ヶ所の疵痕があったという。信濃虚空蔵岩を警固していた時に、現れた鬼を退治したとの伝説がある。満頼の死後は、息子多田新蔵が後継者となったが、長篠の戦いで戦死したと伝わる。

参加団体 / 朝日生命保険相互会社 甲府支社

山の4番隊 織田信長との交渉役を務めた譜代家老
秋山伯耆守 虎繁 (P5/MAP 陣屋 No. 11)

秋山氏は、甲斐源氏の支流で、武田家の譜代家老の家柄である。天文15年(1546)に侍大将に抜擢され、大島城などの城代を歴任、伊那の土豪春近衆を配下に置き、織田・徳川氏を監視した。元龜3年(1572)、信玄が西上作戦を開始すると、虎繁は美濃に侵攻し、遠山景任未亡人(織田信長の叔母)の守る岩村城を奪取した。長篠敗戦後、織田信忠軍に包囲されて降伏し、岐阜で処刑された。

参加団体 / 甲府市(東地区自治会連合会)

山の2番隊 文武両道に秀でた北条氏との折衝役
板垣駿河守 信方 (P5/MAP 陣屋 No. 7)

武田氏の譜代家老で、両職という最高職に就任していた重臣。甲斐源氏の支流にあたり、武田氏を支えて活躍した。天文10年の武田信虎追放の際には、甘利・飯富らの宿老を説得し、信玄擁立を果たしたという。信玄が、同11年に諏訪頼重を滅ぼすと、上原城(諏訪市)で占領地の統治にあたった。天文17年2月、信玄が村上義清と戦い、初めての敗戦を喫した上田原の合戦で戦死した。

参加団体 / SMBC日興証券株式会社 甲府支店

山の5番隊 鬼退治で有名な渡辺綱に例えられる剛勇者
原美濃守 虎胤 (P5/MAP 陣屋 No. 11)

下総国千葉氏の一族原氏の出身。信虎に仕える。部下10人で100人分の働きをするといわれ、武田家から賜った感状は38通、全身の傷痕は53ヶ所に及び、鬼美濃と恐れられたという。天文20年には信濃国平瀬城主に任命された。天文20年には信濃に剃髪し、清岸と号した。永禄4年(1561)、信玄が信越国境の上杉方の拠点割ヶ岳城を攻めた際に重傷を負い、川中島の戦いには参加できなかった。

参加団体 / 甲府市(一般社団法人甲府青年会議所)

山の3番隊 17度の合戦で17の功名を立てた武芸達者
小幡豊後守 昌盛 (P5/MAP 陣屋 No. 12)

小幡虎盛の息子。父の死後、自ら希望して信玄の旗本となった。馬の名手で、敵視察に赴き敵に追われても決して捕まることがなかったという。武田氏滅亡の際は、病気のため、勝頼に従うことができず、甲府善光寺門前で暇乞いをしてまもなく死去した。信玄・勝頼の事績を描いた、『甲陽軍鑑』の編者小幡景憲は、昌盛の3男である。

参加団体 / NECグループ

山の6番隊 他国の情報と軍法の知識で功績
山本勘助 晴幸 (P5/MAP 陣屋 No. 8)

三河国牛久保出身の浪人で、隻眼となり、片足も不自由になったという。天文12年(1543)、板垣信方の推薦で、信玄に召し抱えられ、足軽大将となる。内政、軍略、築城術に関する信玄の諮問に答え、さまざまな意見を具申する軍師として、重用された。永禄4年(1561)の川中島の戦いで、上杉謙信撃滅の秘策として、「啄木鳥の戦法」を進言するが失敗し、責任を痛感して、乱戦の中に身を投じて戦死した。

参加団体 / YOKOGAWAグループ

山梨のお土産たくさん作っています!

山梨と言えばこれ! 信玄ほうとう

おうちのお風呂が隠し湯に!?

山梨県観光キャラクター 武田菱丸グッズ

風林火山!! 武田信玄でめぐる

燃え上がる!! 信玄Tシャツ

黒糖ときなの香りを楽しめる 武田信玄かりんとう

旅の記念に 通行手形!

商人気

お問い合わせ先
 ☎ 0120-32-6115 (受付時間 土・日・祝日を除く 9:00~17:30)
 FAX 055-232-6224
 〒400-0815 山梨県甲府市国玉町879
 URL https://www.fujisey.com

「思い出と夢」の心を皆様に

FUJISEY

未来をつなぐ...

ICTソリューションの力で未来を変える

株式会社 Ysk e-com

本社 山梨県甲府市湯田1-13-2 ☎055-236-1111
 annex 山梨県甲府市湯田1-12-25 ☎055-236-1119
 Do-KASUGA 山梨県甲府市中央1-20-18 ☎055-236-1115
 Do-Chuo V 山梨県甲府市中央5-2-27 ☎055-236-1150
 東京支社 東京都港区東新橋2-18-3 2階 ☎03-5401-1022
 福岡支店 福岡県福岡市博多区博多駅前1-9-3 12階 ☎092-686-8666

本陣隊・武田時代隊

武田信玄公本陣

武田信玄の本陣は、甲州軍団の頭脳であり中核であった。その構成は、大將信玄を中心に、前面には鉄砲衆、長柄衆、弓衆が三段で控え、その後ろに騎馬衆が配置され、信玄を敵の攻撃から守っていた。さらに御中間衆、廿人衆、近習衆（近足）と本陣を守る重臣、一族が幾重にも信玄を取り囲み、本陣の標識である大將旗、風林火山の軍旗、諏訪明神旗などが林立していたという。これら武田信玄公本陣の将卒は旗本と呼ばれ、甲州軍団の人々の尊敬と憧憬を一身に集めていたという。



参加団体／山梨県及び一般公募



大井夫人行列

武田氏支流の強豪大井氏の出身。父は大井信達。父と夫信虎はかつて甲斐統一をめぐる争いが、信虎に敗れて降伏した。この時、信虎に嫁いだとされる。その後、信虎との間に信玄、信繁、信康らをもうけている。夫信虎追放後は落髪して武田氏館の北側に隠棲、御北様と呼ばれ敬愛された。天文21年病没。享年55歳。



参加団体／南アルプス市

湖衣姫隊

武田勝頼の生母。実名は不明。湖衣姫は作家新田次郎氏の創作。通常は諏訪御料人と呼ばれ、諏訪頼重と側室麻績氏との間に生まれた。生年は天文元年（1532）と推定される。同14年に信玄の側室となり、同15年に勝頼を生んだが、弘治元年（1555）11月6日に死去。勝頼は、高遠城下の建福寺を菩提寺と定め、生母の墓所を設けた。



参加団体／山梨学院大学国際リベラルアーツ学部

武田四郎勝頼隊

信玄の四男、仮名は四郎。生母は諏訪御料人（湖衣姫）。諏訪氏の後継者とされ、長じて伊那郡高遠城主となり、伊奈四郎とも呼ばれた。兄義信の死後、信玄の後継者となり、武田家統領となったが、長篠合戦で織田信長に敗れ、天正10年に織田・徳川・北条三氏に攻められて滅亡した。享年37歳。



参加団体／甲州市

三条夫人行列

京都の公家三条公頼の次女。天文5年（1536）に武田信玄の正室として嫁いできたといわれ、それは今川義元の仲介によるものとされる。信玄との間に、嫡男義信、次男龍芳、三男信之、長女黄梅院殿（北条氏政正室）、次女見性院殿（穴山信君正室）らを生んでいる。50歳で死去。



参加団体／一般公募

武田次郎信親隊

P5/MAP
陣屋No. 9

信玄と三条夫人の次男。眼を患って盲目となったので半僧半俗の生活を送った。また同時に信州海野城主であり、海野二郎信親と名乗る武将でもあった。その死後、嫡子信道は武田家の嫡流として子孫を伝承する。



参加団体／東京ガス山梨株式会社

武田太郎義信隊

P5/MAP
陣屋No. 4

信玄の嫡男である。母は三条夫人。武田家の継承者として信玄公や重臣の期待を担った。常に先鋒として戦場に出て勇敢に戦った。戦場では信玄公と作戦を巡って意見対立するほど自主性を持っていた。知勇兼備えた侍大将である。



参加団体／サンスタールグループ



トヨタ車全車種取り扱い致しております

- 本社甲府店
甲府市朝氣3丁目10番21号
055-232-5511
- 竜王店
甲斐市玉川1580
055-279-5533
- 若草店
南アルプス市浅原351-2
055-283-5001
- 韮崎店
韮崎市ツツ谷1971-1
0551-23-0500
- 河口湖店
南都賀郡富士河口湖町船津4875-1
0555-73-1161
- 都留店
都留市田野倉196-1
0554-43-9000
- ピステージ
甲斐市富竹新田1596-2
055-276-1266

トヨタ ネットトヨタ 甲斐

新車ラインナップ・試乗予約
中古車検索・メンテナンス詳細はこちら▶



5G時代を支える

最小の消費電力で、最大のデータ伝送を可能にする化合物半導体デバイスを提供

デジタル社会およびカーボンニュートラルの実現を目指しています。

電子と光、両通信デバイスを開発する世界唯一のメーカー

住友電工

デバイス・イノベーション

山梨県中巨摩郡昭和町紙漣阿原1000（本社：神奈川県横浜市栄区金井町1番地）